



支援員養成講座4
発達障害と合理的配慮③
自閉症スペクトラム障害(ASD)

1

自閉症スペクトラム障害 (ASD)

(Autistic Spectrum Disorder)

持続する相互的な社会的
コミュニケーションや
対人的相互反応の障害

限定された反復的な行動、
興味、または活動の様式

これらの症状が
日々の活動を制限するか障害する

日本精神神経学会(監修) 医学書院 DSM-5精神疾患の診断統計マニュアル



3

学齢期のASDの子どもの様子

- ・集団になじむのが難しい
- ・臨機応変に対応するのが苦手
- ・どのように「なぜ」といった説明が苦手



5

主な発達障害

学習障害 (LD)

注意欠陥・多動性障害 (ADHD)

自閉症スペクトラム障害 (ASD)



2

社会的コミュニケーションの発達の違い

- ・視線が合いにくく、表情が乏しい
- ・ひとりであることを好んでいるように見える
- ・思ったことをそのまま言ってしまう
- ・一見自分勝手に、わがままに見える



4

社会的コミュニケーションの発達の違いへの支援

こちらの指示は、
はじめにはっきり子どもにわかるよう
に伝えておく

ルールは見てわかるように
はっきり示す

頭ごなしに叱る前に、子どもの頭の中にどうい
う考えがあるかを想像してみる
(子どもは以前経験したことの記憶をもとに行動
していることが多い)

少しでもうまくできたときに、
子どもの喜ぶ方法でほめる

失敗したことをくどくどと叱るよりも、
どうしたらよいかを具体的に示す



6

想像することの難しさ

- 物を並べたり、同じことを繰り返して遊ぶ
- 特定のマークやアルファベット、数字などに極端に興味を示す
- 初めての場所や人に慣れるのに時間がかかる
- 道順、いつもの手順、生活パターン、時間、物の配置などのささいな変化にも抵抗する



7

想像することの難しさへの支援

初めての場面や活動では、無理強いをせず、子どもが場所や人になれるための時間をとる

初めての場面に際しては、子どもが見通しを持てるように、あらかじめ絵や写真などで、「いつ」「どこで」「なにがおこるのか」「いつ終わるのか」などを示す

日ごころから、日課や予定を絵・写真・文字など視覚的な方法で示していると、急な予定の変更の場合も子どもにより混乱なく伝えることができる



8

ASDと合理的配慮

一日の予定や学習の流れを確認

安心して生活できることを最優先にして支援

別室で同様の活動ができるようにしたり、クールダウンの場所を用意

国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベース



9

二次障害について

失敗経験の積み重ねやがあったり、叱責されてばかりいると、劣等感をもちやすく、自尊心が低くなりがちになる

- 自己評価の低下
- 友達とのトラブル(いじめやからかいの対象となることも)
- 学校などで孤立しやすい
- かんしゃくを起こしやすくなり、反抗的、挑発的な行動をとる
- 無力感、不安、情緒不安定、人間不信、うつ状態になる など

大人の接し方によって、基本的な他者への信頼感や肯定的な自己イメージを保つことができます。肯定的な接し方、二次障害を生じさせない配慮が必要です。



10